

目標未達成理由等の報告書

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施年度	目標年度	事業実施主体
栃木県	栃木市	部屋	平成27年度 (平成26年度繰越分)	平成29年度	栃木市

I 経営体ごとの成果目標の未達成理由等

No.	対象経営体名	成果目標	目標未達成となった主な理由等	目標達成に向けた改善措置 及び目標達成見込時期等
1	省略	経営面積の拡大	現在の耕作圏が圃場整備のされた条件の良い地域であるため、借受可能な農地はすでに受け手が固まっております、新規の農地が出回りにくい。また他の大規模農家と競合し集積が伸びない状況である。	中間管理機構（農地バンク）や農業公社の活用。作業受託及び耕作圏を拡大し、近年度中の目標達成を目指す。

II 地区の成果目標(必須目標)ごとの未達成理由等

成果目標項目 (必須目標)	未達成理由の総括	目標達成に向けた改善措置 及び目標達成見込時期等
経営面積の拡大	当地区は、大規模経営体が多く、圃場整備された優良農地については、すでに受け手が固まっております、借受可能な新規の農地が出回りにくく、また他の大規模農家との競合もあり集積が伸び悩んでいる状況であるため。	中間管理機構（農地バンク）や農業公社の活用や作業受託及び耕作圏の範囲を拡大する。また、地域内では中規模農家の高齢化も進みつつあるため、その受け皿となるための態勢を整えながら近年度中の目標達成を目指す。

III 地域への影響等と構造政策を進めるための今後の取組方向

<p>1 担い手への農地利用集積について 人農地プラン部屋地区は、経営農地20haを超える4件をはじめ、大規模経営体が多く、圃場整備された優良農地については、すでに受け手が固まっている。対象経営体が属する新波地区100haにおいても借受可能な新規の農地が出にくい状況であるため、農業公社と連絡を密にし、積極的にリタイヤや経営転換農家の情報を収集し、集積を促進する。</p> <p>2 必要となる中心経営体の育成について 圃場整備が進んでおり、米麦大豆の土地利用型の経営体が多く、今後も地区の中心であると見込まれるため、規模拡大・経営安定に向けての支援を行っていく。</p> <p>3 人・農地プランの作成・見直し等について 経営体、農業委員、農業公社、その他関係機関により、年1回集落座談会を開催し、情報収集・現状把握に努めている。</p> <p>4 未達成者の対応等その他 現在取り組んでいる環境保全型農業や直播栽培等、特色を前面に出しつつ、農業公社や中間管理機構を活用し、耕作圏を広げながら、受託も含めて面積拡大を図る。定期的に、本人の意向や作付け状況を確認する。</p>
--

〔記入要領〕

- Iの「目標未達成となった主な理由等」欄については、経営体の成果目標の項目ごとに主な理由を記入する。
また、「目標達成に向けた改善措置及び目標達成見込時期等」欄については、これまでの達成状況等の推移を踏まえ、具体的な改善措置の内容、目標達成の見込とその時期について記入する。
- IIの「未達成理由の総括」欄については、必須目標となる地区の成果目標ごとに、未達成理由を総括的に整理する。
また、「目標達成に向けた改善措置及び目標達成見込時期等」欄についても、地区の成果目標ごとに具体的な改善措置の内容、目標達成の見込みとその時期について総括的に記入する。
- IIIについては、IIで整理した地区の成果目標未達成理由等を考慮の上で、①地区内の担い手への農地利用集積状況や出し手・受け手の現状等を踏まえた課題と今後の具体的な対応策、②地域が必要とする担い手と地域内での役割分担の状況等を踏まえた課題と今後の具体的な対応策、③人・農地プランと現状との乖離状況等を踏まえた具体的な対応策等、④未達成者への今後の対応その他課題と対策等について記入する。